

円金利上昇と日銀金融政策・為替の見通し

資産
運用年金
財政年金
制度

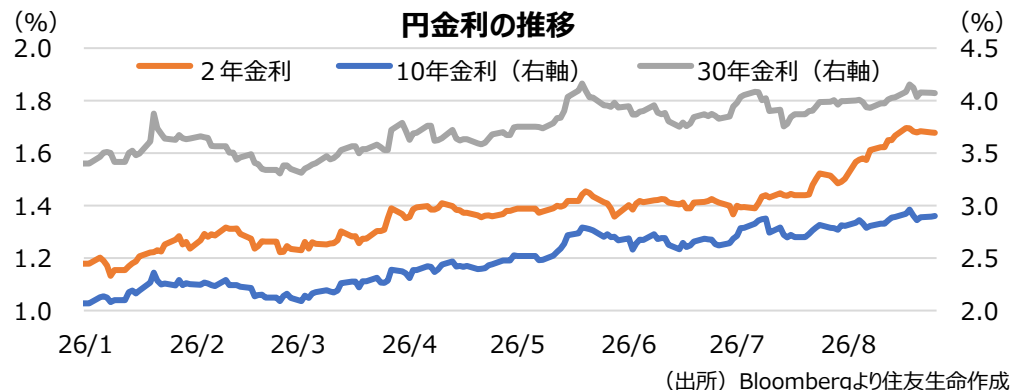
その他

- ✓ 中東情勢の悪化による原油高を受け、企業物価が上昇するなど、先行きの物価上振れ懸念が高まっています。こうしたインフレ懸念に加え、日銀の利上げペース加速の観測や財政拡大への警戒感を背景に、円金利は歴史的な高水準まで上昇しています。
- ✓ 日銀は物価上振れリスクへの警戒を強め、追加利上げに前向きな姿勢を示しており、市場でも複数回の利上げが織り込まれています。当社では、日銀が2027年前半までに計3回の利上げを実施すると予想しています。
- ✓ 円/ドルは日米協調介入後に円高が進んだものの、その後160円近辺まで反発しており、介入の可能性が意識されやすくなっています。今後は日銀の追加利上げや米国の利上げ織込みの剥落を背景に、年度末にかけて158円程度まで緩やかな円高進行を想定しています。

■円金利上昇の背景

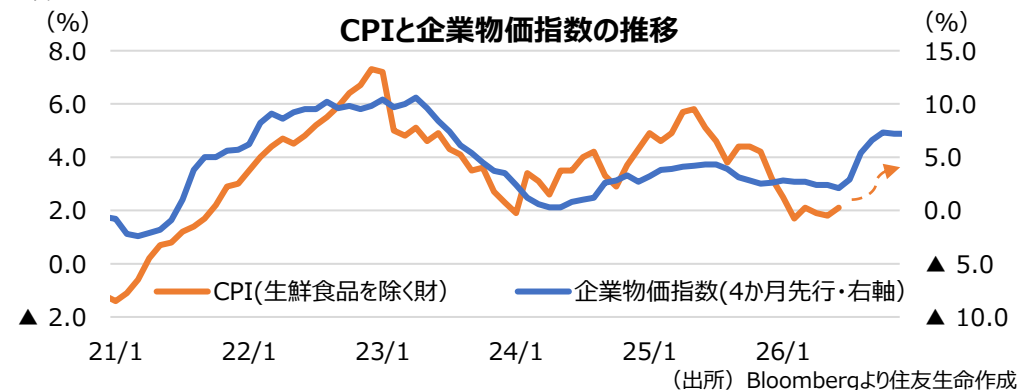
中東情勢の悪化に伴うエネルギー価格の高騰を受けたインフレ加速への懸念や、それに伴う日銀の利上げペース加速の観測、政府の消費減税や成長戦略を背景とした財政拡大への懸念から、円金利は歴史的な高水準まで上昇しています。

政策金利の影響を受けやすい2年金利は約31年ぶりとなる1.7%台まで上昇し、10年金利も一時約30年ぶりの高水準となる3.0%に到達しました。また、財政懸念の影響を受けやすい30年金利は4.0%を超え、過去最高水準まで上昇しています。



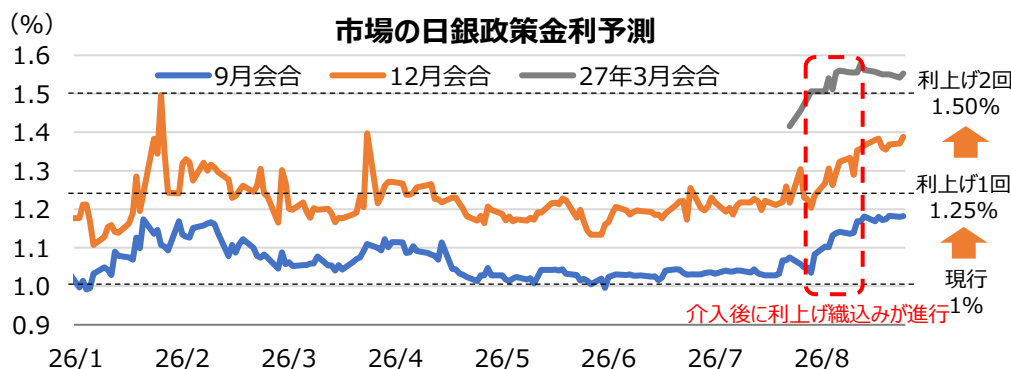
■中東情勢悪化の物価への影響

2月末の米国によるイラン攻撃以降、原油価格は急上昇しました。6月に停戦に向けた覚書が締結され、原油価格は米国によるイラン攻撃前と同水準の1バレル70ドル台まで下落したものの、その後戦闘が再開し、停戦に至らないまま8/16の交渉期限を迎えました。原油価格は再び80ドル台まで上昇し、中長期的な物価押上げへの懸念が高まっています。原油高を受けて川上の企業物価指数は大幅に上昇しており、今後は価格転嫁の本格化に加え、電気・ガス料金の支援終了も重なり、川下の消費者物価への押上げ圧力も強まる公算です。



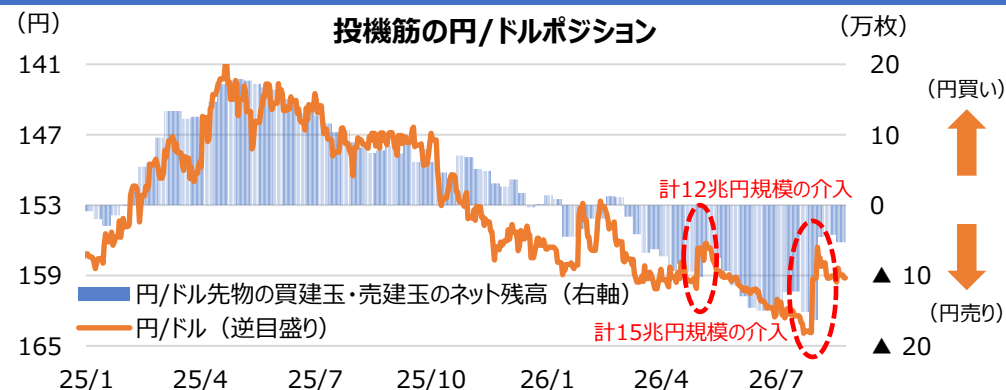
■日銀金融政策の見通し

日銀は7月会合で、基調的な物価上昇率が2%を超えて上振れるリスクへの警戒を強めました。また、「主な意見」は全体的にタカ派色が強く、次回展望レポートが公表される10月会合を待たず、9月会合での利上げにも前向きな姿勢が窺えます。さらに、日米協調介入による両国当局の円安是正姿勢や、ベッセント財務長官による早期利上げを期待する発言もあり、市場は9月利上げを9割程度織り込んでいます。こうした物価上振れへの警戒や円安是正に向けた動きを背景に、日銀は今後複数回の利上げを実施する見込みで、利上げペースが加速する可能性が高まっています。



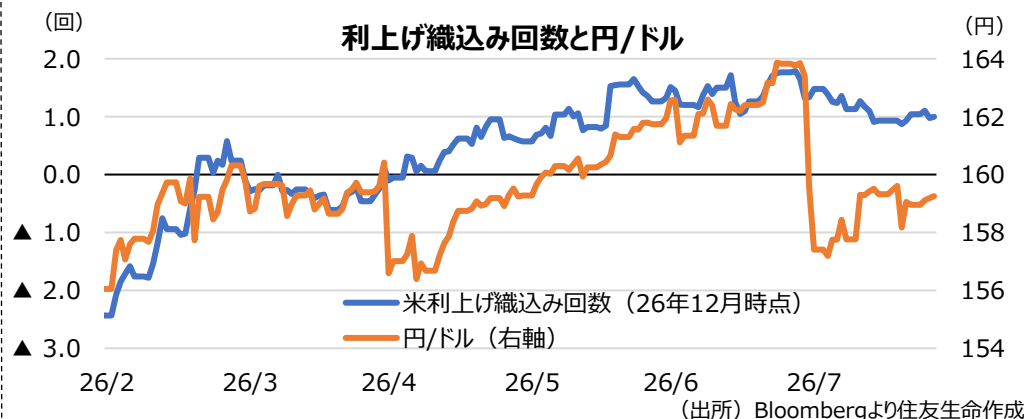
■円/ドルの動きと当社見通し

中東情勢への懸念が熾り続ける中、円/ドルが164円近辺まで上昇した7/30に、政府・日銀は4月・5月に続き円買い・ドル売り介入を実施しました。その直後の7/31海外時間には、米財務省がニューヨーク連銀を通じてユーロ売り・円買い介入を実施し、日米協調介入を行いました。介入直後は一時155円台まで円高が進んだものの、8月中旬には159円台まで反発し、その後は横ばいで推移しています。日米両国による円買い協調介入は28年ぶりであり、両国当局の金利・為替に対する強い姿勢が示されたことで、円/ドル160円近辺では為替介入の可能性が意識されやすくなっています。



先行きについて、中東情勢が膠着する中で原油価格の高止まりが想定され、日銀は概ね市場の織込みどおり来年前半までに3回の利上げを実施すると見込みます。一方、米国は関税の価格転嫁が頭打ちになったことや、賃金の伸び鈍化によりインフレ指標等の減速が継続する中で、年内1回程度のFRBの利上げ織込みが徐々に剥落することに伴い、円/ドルは小幅に円高・ドル安が進み、2026年度末の円/ドル着地を158円と予想します。

更なる円高進行には日銀の連続利上げ・利上げ幅拡大・ペース加速や米国の景気減速などが必要と考えられますが、現時点ではリスクシナリオと想定します。



- ◆ 本資料はご契約者さまにて情報提供することを目的に作成しているものであり、保険の募集を目的としているものではありません。商品のご検討にあたっては、当社作成のパンフレット等をご覧ください。
- ◆ 本資料に記載のインデックスに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、当該インデックスの公表元またはその許諾者に帰属します。なお、当該インデックスの公表元またはその許諾者は、当該インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該インデックスを用いて行われる当社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。
- ◆ 本資料に掲載の見通し等は現時点のものであり、将来を保証するものではありません。また、今後予告なく見直すことがあります。

あなたの未来を強くする



(住友生命保険相互会社)

東京本社 〒104-8430 東京都中央区八重洲2-2-1

電話 (03)6664-8650 (年金事業室)

〈ホームページ〉 <https://www.sumitomolife.co.jp>